

小学生の勤労観・職業観を育む実証的研究

一 学級活動「掃除当番」の指導プログラム等の 開発・工夫 及び 指導を通して 一

松田 修 中園 貴之 / 中園 大三郎

1. 研究要旨

今日、学校から職業への移行プロセスに問題を抱える若者が増え、社会問題になっている。したがって、一人一人が主体的に自己の進路を選択・決定できる能力やしっかりとした勤労観・職業観を身につけるキャリア教育の推進が今次の学習指導要領に付記され、小・中・高等学校を通じて、組織的・系統的に計画していくことが示された。

この点、義務教育の前期段階に当たる小学校では、概してキャリア教育に取り組むことへの意識や実践はあまり浸透していなく、その実践例は少ないのが現状である。したがって小学校において勤労観・職業観の育成を図ることを意図的に計画的・系統的に指導することはこれからの課題であり、そのため有効な指導プログラム開発・工夫が待たれるところである。

本研究では、今次の小学校学習指導要領特別活動の改訂で新しく付記された中で、特別活動の内容である「学級活動の内容(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 エ. 清掃などの当番活動等の役割と働く事の意義の理解」の付記を踏まえ、小学校での掃除当番を研究対象に取りあげた。

研究内容は、はじめに小学校教員に掃除当番等に関わる意識調査を実施することにより、キャリア教育の視点から諸課題等を明らかにする。次に、キャリア教育の視点を取り入れた掃除当番の指導プログラム等を開発・工夫し、それを用いた掃除当番の指導前後における小学生の意識調査から、指導プログラム等の有効性及び小学生の「勤労観・職業観」育成に関わる意識や態度の変容を明らかにする。そのため、次の仮説を立てて研究に取り組んだ。

仮説(1)

- 小学校教員に掃除当番等に関わる意識調査を実施することにより、キャリア教育の視点から諸課題等を明らかにすることができるであろう。

仮説(2)

- キャリア教育の視点を取り入れた掃除当番の指導プログラム等を開発・工夫し、それを用いた掃除当番の指導前後における小学生の意識調査から、指導プログラム等の有効性及び小学生の「勤労観・職業観」育成に関わる意識や態度の変容を明らかにすることができるであろう。

2. 研究1 (小学校教員対象 意識調査)

(1) 目的

小学校教員対象に係活動・清掃当番に関わる意識調査を実施し、キャリア教育の視点から考察する。

(2) 研究協力者 小学校教員 25名(男9名、女16名)

(3) 調査時期 平成24年10月中旬

(4) 質問紙

- ① 当番(掃除・給食・日直当番)指導の行き届き状況を5件法で質問。
- ② 係活動・当番活動等における「勤労観・職業観」育成の程度を5件法で質問。

(5) 結果

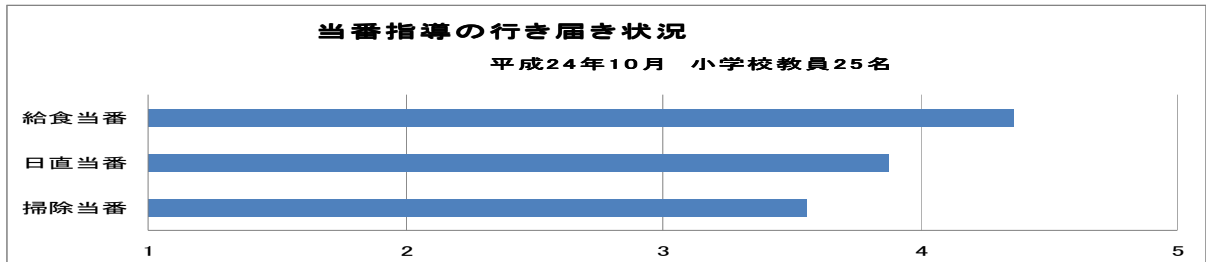


図-1 当番指導の行き届き状況

- 小学校教員対象に実施した当番指導の行き届き状況では、給食・日直・清掃の内、最も指導の行き届きにくいのは掃除当番であることがつかめた。このことは、清掃場所が教室以外に数箇所に分かれ、1人の担任では十分に指導に回りにくいことが推察できる。したがって掃除当番における「勤労観・職業観」の育成は工夫を要すると言える。

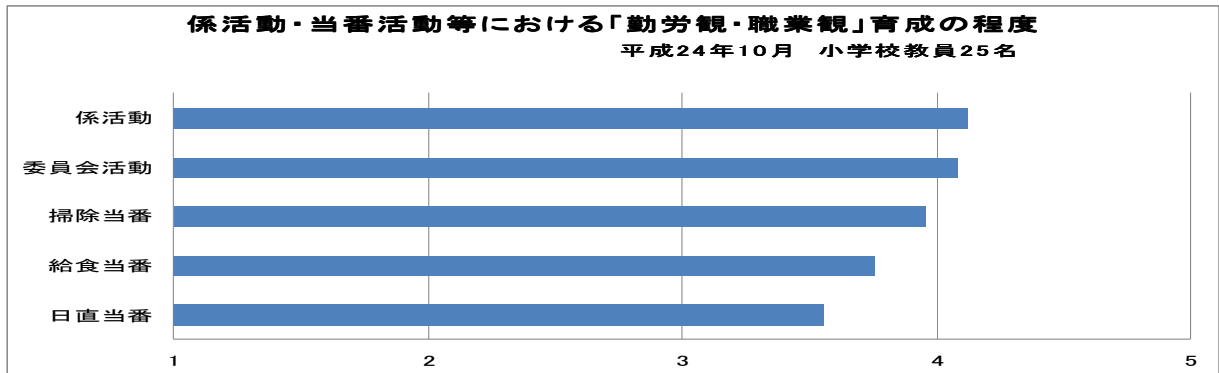


図-2 係活動・当番活動等における「勤労観・職業観」育成の程度

- 小学校教員対象に実施した係活動・当番活動等における「勤労観・職業観」育成可能な程度の上位2つは係活動、委員会活動であった。この2つの活動は、他の活動よりも児童の選択や創意工夫の可能なものである。掃除当番は3番目に上がっており、上位2つの活動に比べると、児童の興味・関心に関係なく全員に当番の仕事が必ず回ってくるものであり、このような当番の仕事を通しての「勤労観・職業観」育成への教員意識は高いとは言いがたい。

3. 研究2 (掃除当番の指導プログラム等の開発・工夫)

(1) 目的

児童の勤労観・職業観の育成を育む視点から、掃除当番の指導プログラム等を開発・工夫する。

(2) 「掃除当番」指導プログラム等の開発・工夫の実際

① 掃除当番とキャリア教育との関連から

掃除などの当番活動を内容とする特別活動は、望ましい集団活動や体験活動を通して、一人一人の児童が自らの生き方の中で自己実現を図ることを目指し、社会的自立を重視した点でキャリア教育と方向性が一致する。したがって、小学校の掃除当番においても、キャリア教育促進の4領域・8能力である「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」に示された能力・態度を育成するため、従来の掃除当番の指導を見直しながら、

よりキャリア教育の視点、つまり将来の社会的自立・職業的自律を念頭に置きながら児童たちの成長や発達を促進する見方から掃除当番の指導プログラム等を創出していかなければならないと考えた。

[キャリア教育の視点を踏まえた掃除当番の指導展開の工夫]

○ みんなの役に立ち、自分も楽しい係を考えよう (第5学年 学級活動 1時間)

(指導のねらい)

- ・ 「学級生活の向上につながり、みんなのために役立つ掃除を考えることができるようにする。」

(指導の展開)

	活動内容	指導上の留意事項
導入	1. 掃除の仕事をしているときの気持ちを出し合う。	○ 小グループで話し合った後、発表し、共通している内容から掃除の意義や役割等について気付くようにする。
展開	2. 掃除を理解し、学級生活の向上やみんなの役に立つ掃除を考える。 3. 掃除の仕事をする日時・場所を確認し、約束ごとを決めよう。 4. 役割分担を決めよう。	○ 学級・学校生活の美化を図ることを理解し、進んで掃除の仕事を行う事ができるようにする。 ○ みんなのために責任を持ち、進んで行える計画を立てる。 ○ 進んで掃除分担等を決めることができようにする。
終末	5. 今日の話し合いの振り返りをしよう。 6. 先生の話	○ 今日の話し合いを振り返り、今後の掃除に生かすことができるようにする。 ○ 掃除の必要性を考え、みんなのために掃除を進んで行うことの大切さを理解できるようにする。

② 掃除当番と道徳教育・キャリア教育の関連から

道徳の時間に掃除当番の体験を取り上げることは、働くことの意義を理解し、みんなのために役立つ仕事をしようとする心情を育て、道徳的価値の自覚を深めることにつながる。すなわち、掃除当番での役割を遂行する実践の場が道徳的実践力を育てることになると考える。

このような双方の教育機能は、児童一人一人が自らの生き方の中で自己実現を図ることを目指し、社会的自立を重視した点でキャリア教育と方向性が一致する。

[キャリア教育の視点から道徳の時間で取り上げた掃除の指導展開の工夫]

○ 主題名「掃除当番の見直し」 内容項目 4-(4) 勤労・奉仕

(第4学年 道徳の時間 1時間)

(指導のねらい)

- ・ 「掃除の必要性を考え、自ら進んで学校内を美しくしようとする態度を養うことができるようにする。」

(指導の展開)

	学習内容	指導上の留意事項
導入	1. 本時の学習のねらいについて先生の話聞く。	○ 掃除の熱心な子の様子や気持ちを紹介し、本時のねらいを明確にする。

展開	2. 利用したいと思う手洗い場やトイレの様子について話し合う。 3. なぜ掃除が必要であるのかをグループで話し合い発表する。 4. 掃除の仕事から学んでいることについて考え、発表する。	○ 美しくきれいな公共施設の大切さが分かるようにする。 ○ 学級や学校内は、いつでも清潔できちんとしておくことと快適であり、学校生活は気持ちよいことが理解できるようにする。 ○ 協力、責任感、奉仕等とともに、キャリア教育の一環として働くことの意義や大切さを理解できるようにする。
終末	5. 今日の話し合いの振り返り。 6. 先生の話	○ 今日の話し合いを振り返り、今後の掃除当番に生かすことができるようにする。 ○ 今後、自ら進んで学校内を美しくしようとする態度と責任で掃除当番の役を果たすことができるようにする。

③ 掃除当番の指導に用いたプログラム等の内容

(1) 特別活動の全体計画	キャリア教育の視点導入
(2) 学級活動 年間指導計画(議題・題材名一覧)	々
(3) 「掃除当番のふりかえり」表	々
(4) 学級活動学習指導案(掃除当番)	々
(5) 道徳と関連した指導(資料名・内容項目)	々
(6) 道徳学習指導案 例「掃除当番の見直し」	内容項目4-(4)勤労・奉仕・・・上記参照

④ 掃除当番における勤労観・職業観を育む指導プログラム

－職業的(進路)発達に関わる諸能力の育成の視点から－

※ 下線箇所は、「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す。

領域	領域説明	能力説明	低学年	中学年	高学年
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切に行動していく能力	・自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 ・友達と仲良く遊び、助け合う。 ・お世話になった人などに感謝し親切にする。	・自分のよいところを見つける。 ・友達のよいところを認め、励まし合う。 ・自分の生活を支えている人に感謝する。	・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを發揮する。 ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の	・あいさつや返事をする。 ・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 ・自分の考えをみんな	・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。 ・友達の気持ちや考えを理解しようとする。 ・友達と協力して、学	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 ・ <u>異年齢集団の活動</u> <u>に進んで参加し、役割</u>

		成長を果たしていく能力	な前で話す。	習や活動に取り組む。	<u>と責任を果たそうとする。</u>
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・ <u>身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。</u>	・ <u>いろいろな職業や生き方があることが分かる。</u> ・ <u>分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。</u>	・ <u>身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。</u> ・ <u>自分に必要な情報を探す。</u> ・ <u>気付いたことや個人・グループでまとめたことを発表する。</u>
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	・ <u>係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。</u>	・ <u>係や当番活動に積極的にかかわる。</u> ・ <u>働くことの楽しさが分かる。</u>	・ <u>施設・職場見学等を通して、働くことの大切さや苦労が分かる。</u> ・ <u>学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える。</u>

※ 紙面の関係上、「将来設計能力」「意思決定能力」は省略する。

出典：「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」平成14年11月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター

4. 研究3（児童対象 意識調査）

(1) 目的

掃除当番の指導プログラム等を開発・工夫し、その有効性及びそれを用いて掃除当番の指導を行い児童の「勤労観・職業観」育成に関わる意識や態度の変容を明らかにする。

(2) 調査対象者

- 重点指導学級(実験群) 大阪市立6小学校7学級 1～6年生 195名(男94名、女101名)
- 通常指導学級(統制群) 大阪市立3小学校6学級 1～6年生 165名(男78名、女87名)

(3) 調査時期

- 事前調査 平成24年10月24日、事後調査 平成24年11月30日

(4) 調査手続き

小学生対象に質問紙法による事前調査を平成24年5月中旬に、事後調査を同年7月中旬に実施した。掃除当番の調査は共同研究者である学級担任が行った。

(5) 質問紙

質問紙は8問で構成し、その質問項目は、2002年11月「国立教育政策研究所生徒指導研究センター調査研究報告書」が示したキャリア教育で育む次の「4領域8能力」評価の観点に合わせた。

表-1 係活動アンケート項目の内容

質問番号	質問項目	キャリア教育の領域・能力	
		8能力	4領域
1	あなたは、自分や友達の良いところに気づき、認めあい助けあうことができますか。	①自他の理解能力	1. 人間関係形成

5	自分の意見や気持ちを分かりやすく、みんなに話すことができていますか。	②コミュニケーション能力	能力
3	仕事でわからないことは、たずねたり、図かんなどで調べたりすることができますか。	③情報収集・探索能力	
7	係の仕事を進んで行い、働くことの大切が分かりますか。	③ 業理解能力	
8	友達との役割や役割の分担の必要さが分かっていますか。	⑤役割把握・識能力	3. 将来設計能力
4	係の計画づくりの必要性に気づき、仕事のしかたが分かっていますか。	⑥計画実行能力	
6	自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで係の仕事をすることができますか。	⑦選択能力	4. 意思決定能力
2	自分の係の仕事に責任を感じ、最後までやりとることができますか。	⑧課題解決能力	

(6) 分析方法

「勤労観・職業観」(キャリア教育の領域・能力)の育成に関わる意識や態度の変容を明らかにするため質問項目の得点は、「とてもそう思う」5点、「まあそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「まったく思わない」1点として算出した。

また、掃除当番の指導プログラム開発・工夫等の有効性を全体的につかむため、明らかにしたいことは、2(実験群、統制群)×2(事前・事後)の交互作用であるので、まず、この点から質問項目を統計処理した。あと、必要に応じて、2(実験群、統制群)×3(低学年、中学年、高学年)×2(事前、事後)の3要因分散分析を行った。

(7) 結果及び考察

表-2 実験前のキャリア教育の諸能力全体の平均値

実験群	1 自他の理解能力	5 コミュニケーション能力	2 課題解決能力	6 選択能力	3 情報収集・探索能力	7 職業理解能力	4 計画実行能力	8 役割把握・認識能力
有効	198	197	198	198	198	198	198	198
欠損値	1	2	1	1	1	1	1	1
平均値	3.80	3.84	4.17	4.03	3.73	4.19	4.32	4.19
標準偏差	1.113	1.214	.998	1.080	1.268	.993	.949	.977

比較群	1 自他の理解能力	5 コミュニケーション能力	2 課題解決能力	6 選択能力	3 情報収集・探索能力	7 職業理解能力	4 計画実行能力	8 役割把握・認識能力
有効	157	157	157	157	157	157	157	157
欠損値	0	0	0	0	0	0	0	0
平均値	3.96	3.73	4.22	4.17	3.93	4.31	4.18	4.33
標準偏差	.993	1.253	1.040	1.061	1.166	.966	1.192	.945

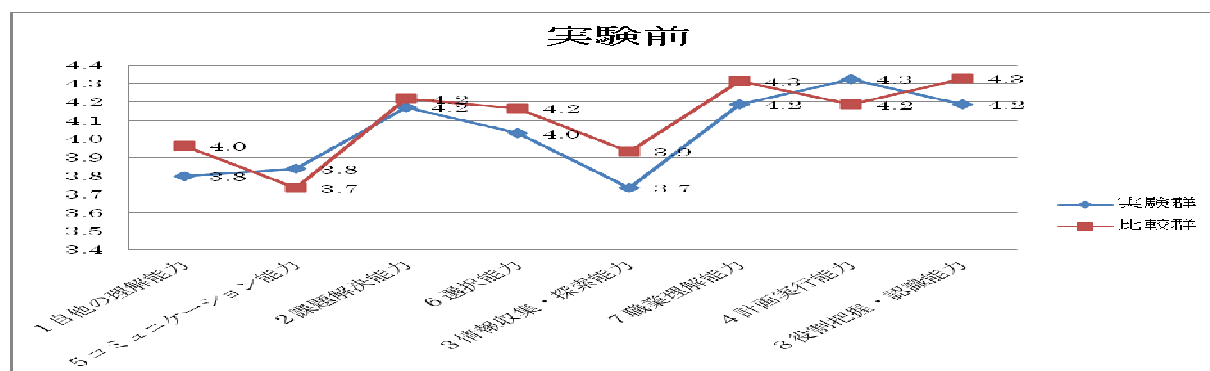


図-1 実験前のキャリア教育の諸能力の比較

○ 実験前のキャリア教育の諸能力を比較すると、実験群(重点指導学級)は比較群(通常指導

学級)よりも8能力中2能力の平均値のみが高い数値である。

表-3 実験後のキャリア教育の諸能力全体の平均値

実験群		1 自他の理解能力	5 コミュニケーション能力	2 課題解決能力	6 選択能力	3 情報収集・探索能力	7 職業理解能力	4 計画実行能力	8 役割把握・認識能力
度数	有効	196	196	198	198	198	198	198	198
	欠損値	2	2	1	1	1	1	1	1
平均値		4.06	3.98	4.31	4.26	4.04	4.32	4.46	4.44
標準偏差		.998	1.055	.871	.992	1.110	.868	.781	.842

比較群		1 自他の理解能力	5 コミュニケーション能力	2 課題解決能力	6 選択能力	3 情報収集・探索能力	7 職業理解能力	4 計画実行能力	8 役割把握・認識能力
度数	有効	151	151	157	157	157	157	157	157
	欠損値	6	6	0	0	0	0	0	0
平均値		3.95	3.86	4.30	4.14	3.96	4.29	4.20	4.33
標準偏差		1.025	1.126	.879	1.052	1.270	.963	.987	.900

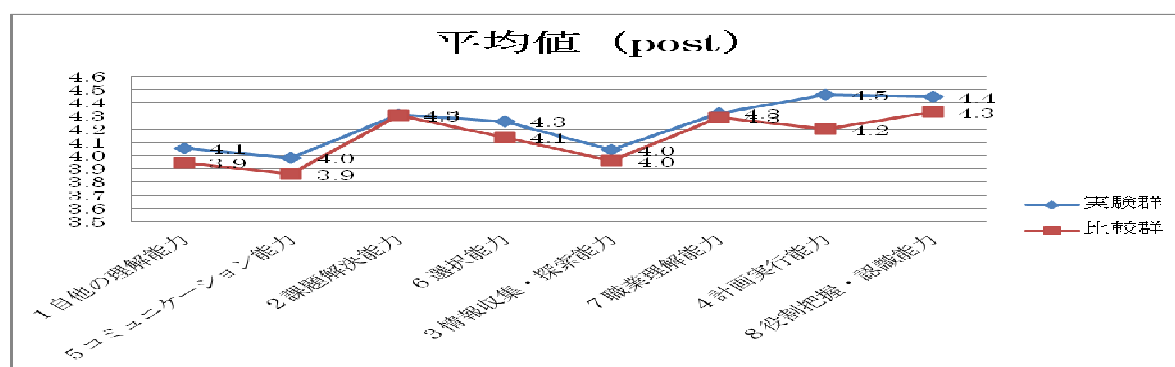


図-2 実験後のキャリア教育の諸能力の比較

○ 実験後のキャリア教育の諸能力を比較すると、実験群(重点指導学級)は比較群(通常指導学級)よりも8能力中6能力の平均値は高い数値を示しており、実験前より4能力の平均値が上回っている。このことにより、掃除当番の指導プログラム開発・工夫は有効であったといえる。

(2) 人間関係形成能力

表-4 人間関係形成能力の平均値と分散分析

	実験群		比較群	
	pre	post	pre	post
低学年	8.32	8.72	8.77	8.68
中学年	7.53	7.76	7.24	6.81
高学年	6.47	6.81	7.41	6.27

	自由度	F 値	有意確率
時期	1	0.38	0.54
時期 x 総合学年	2	0.47	0.63
時期 x 指導方法	1	4.45	0.04 *
時期 x 総合学年 * 指導方法	2	0.12	0.89
総合学年	2	42.38	.00 **
指導方法	1	1.68	.20
総合学年 * 指導方法	2	1.55	.21

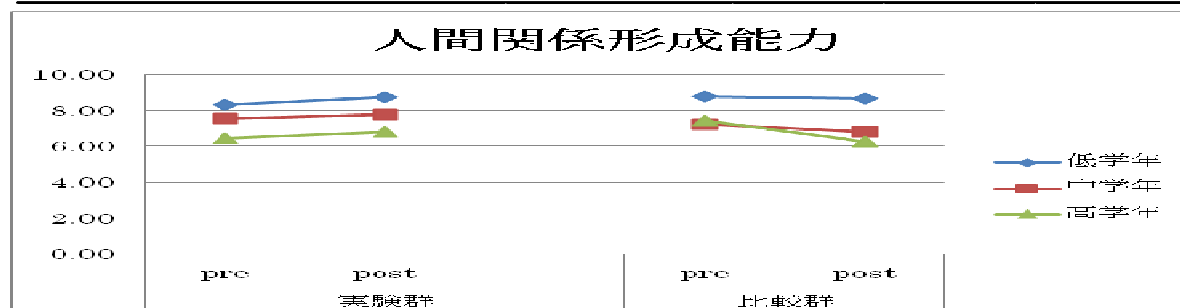


図-3 人間関係形成能力について実験群と比較群の比較

- 学年によって差がある。
 - 指導方法によって差が出ている。(実験群の方が数値は高い)
- (3) 意思決定能力

表－5 意思決定能力の平均値と分散分析

	実験群		比較群	
	pre	post	pre	post
低学年	8.86	8.96	9.03	8.89
中学年	8.02	8.13	8.53	7.70
高学年	7.21	7.18	7.45	6.93

	自由度	F 値	有意確率
時期	1	0.05	0.82
時期 x 総合学年	2	0.02	0.98
時期 x 指導方法	1	4.87	0.03 *
時期 x 総合学年 * 指導方法	2	0.62	0.54
総合学年	2	29.75	.00 **
指導方法	1	1.31	.25
総合学年 * 指導方法	2	0.30	.74



図－4 意思決定能力について実験群と比較群の比較

- 時期と指導方法、時期と学年と指導方法に差が出ている。
 - 中学年、高学年の比較群は post で数値が低下している。
- (4) 情報活用能力

表－6 情報活用能力の平均値と分散分析

	実験群		比較群	
	pre	post	pre	post
低学年	8.10	8.77	8.42	8.91
中学年	7.88	7.96	8.37	7.52
高学年	6.90	7.13	7.00	6.57

	自由度	F 値	有意確率
時期	1	0.00	0.95
時期 x 総合学年	2	1.05	0.35
時期 x 指導方法	1	5.12	0.02 *
時期 x 総合学年 * 指導方法	2	0.71	0.49
総合学年	2	23.05	.00 **
指導方法	1	0.02	.88
総合学年 * 指導方法	2	2.03	.13



図－5 情報活用能力について実験群と比較群の比較

- 学年に差がある。(おそらく低学年が高い)
 - 時期と指導方法の結果に差がある。
 - 中学年、高学年の比較群は post で低下している。
 - 必ずしも実験群が高いとは言えず、低学年では比較群の数値が高くなっている。
- (5) 将来設計能力

表-7 将来設計能力の平均値と分散分析

	実験群		比較群	
	pre	post	pre	post
低学年	8.88	8.96	9.17	8.74
中学年	8.39	8.19	8.98	7.76
高学年	7.90	7.41	7.90	7.25

	自由度	F 値	有意確率
時期	1	0.01	0.93
時期 × 総合学年	2	0.15	0.86
時期 × 指導方法	1	5.36	0.02 **
時期 × 総合学年 * 指導方法	2	0.97	0.38
総合学年	2	16.01	.00 **
指導方法	1	6.10	.01 *
総合学年 * 指導方法	2	0.71	.49



図-6 将来設計能力について実験群と比較群の比較

- 指導方法と学年で差がある。
- 時期と指導方法に差がある。
- 実験群、比較群どちらもすべて数値が低下している。(低学年実験群以外)

5. 本研究の成果と課題

- 小学校教員対象に実施した当番指導の行き届き状況では、給食・日直・清掃当番の内、最も指導の行き届きにくいのは掃除当番であることがつかめた。したがって、掃除当番における「勤労観・職業観」の育成は工夫を要する。
- 小学校教員対象に実施した係活動・当番活動等における「勤労観・職業観」育成可能な程度の上位2つは係活動、委員会活動であった。掃除当番は3番目に上がっており、上位2つの活動に比べると、掃除当番での「勤労観・職業観」育成への教員意識は高いとは言い難い。
- 本研究で開発・工夫した掃除当番の指導プログラム等を用いて、実験群(重点指導学級)と比較群(通常指導学級)で指導した結果、実験群の平均値は高くなり、開発・工夫した指導プログラムの有効性を検証することができた。
- 実験群(重点指導学級)における掃除当番の指導前後を比較して、指導後に有意な差が出た「勤労観・職業観を育むキャリア教育の能力」は次の通りであった。
 - ・ 全学年 → 「人間関係形成能力」(自他の理解能力、コミュニケーション能力)
 - ・ 低・中学年 → 「将来設計能力」(役割把握・認識能力、計画実行能力)、「意思決定能力」(選択能力、課題解決能力)

- ・ 中・高学年→「情報活用能力」(情報収集・探索能力、職業理解能力)
- 学級活動の内容には、掃除当番以外に係活動も挙げられている。したがって、係活動における「勤労観・職業観」の育成についても、本研究同様に取り上げ、今後の研究や実践に資するようにしたい。

[引用文献]

- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 2008 東洋館出版社
 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「調査研究報告書」 2002
 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」 2002

[参考文献]

- 杉田 洋 「よりよい人間関係を築く特別活動」 2009 図書文化
 福岡県小学校特別活動研究会 「特別活動で子どもが変わる」 2011 小学館
 河村茂雄・粕谷貴志 「公立学校の挑戦」 2010 図書文化

[本研究の協力者]

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 武原 市郎 (大阪市立島屋小学校長) | 金井 佳孝 (大阪市立東桃谷小学校長) |
| 保科 智子 (大阪市立淀川小学校教諭) | 南原 文恵 (大阪市立北中道小学校教諭) |
| 河本企世子 (大阪市立豊崎小学校教諭) | 三上 純子 (大阪市立大桐小学校教諭) |
| 石川 恵理 (大阪市立中津小学校教諭) | 中川 仁史 (大阪市立柏里小学校教諭) |
| 遠藤 絹代 (大阪市立柏里小学校教諭) | 宇治丸 幸 (大阪市立柏里小学校教諭) |
| 中西 基子 (大阪市立西九条小学校教諭) | 栴田 忠男 (大阪市立西九条小学校教諭) |
| 大坪 隆 (大阪市立東桃谷小学校教諭) | 太田真由美 (大阪市立柏里小学校教諭) |
| 角野 真介 (大阪市立柏里小学校教諭) | |